

# 調査結果の概要

## 1 食育に関する意識について

### (1) 朝食の摂取状況

**「ほとんど毎日食べる（6～7日）」が82.5%**

朝食の摂取状況について、「ほとんど毎日食べる（6～7日）」と答えた人の割合が82.5%と最も高く、続いて「週4～5日食べる」（5.2%）、「週2～3日食べる」（3.5%）の順となっている。

一方で、「ほとんど食べない（0～1日）」と答えた人の割合は8.2%となっている。

### (2) 野菜を食べる頻度

**「1日1回食べる」が40.6%**

野菜を食べる頻度について、「1日1回食べる」と答えた人の割合が40.6%と最も高く、続いて「1日2回食べる」（36.4%）、「1日3回以上食べる」（17.5%）の順となっている。

### (3) 家族や友人などと食事をとる頻度

**「ほとんど毎日とっている（週6～7日）」が68.0%**

1日1食以上、家族や友人などと一緒に楽しく食事をとる頻度について、「ほとんど毎日とっている（週6～7日）」と答えた人の割合が68.0%と最も高く、続いて「ほとんどとっていない（週0～1日）」（13.4%）、「週2～3日とっている」（10.1%）の順となっている。

### (4) 適正体重の認識と体重コントロールの実践

**「適正体重を認識しているが、体重コントロールは実践していない」が40.4%**

適正体重の認識と体重コントロールの実践について、「適正体重を認識しているが、体重コントロールは実践していない」と答えた人の割合が40.4%と最も高く、続いて「適正体重を認識し、体重コントロールを実践している」（34.2%）、「適正体重を認識していないが、体重コントロールは実践している」（12.8%）の順となっている。

### (5) 農林水産物等を購入する際に優先する産地

**“国産であれば、愛知県産にはこだわらない”が60.6%**

農林水産物等を購入する際に優先する産地について、「価格が多少高くても、愛知県産をできる限り優先して購入する」（3.5%）と「価格が他産地と同等であれば、愛知県産をできる限り優先して購入する」（9.8%）を合わせた“愛知県産をできる限り優先して購入する”と答えた人の割合は13.3%となっている。

「国産であれば、愛知県産にはこだわらず、価格で判断して購入する」（30.4%）と「国産であれば、愛知県産にはこだわらず、味・鮮度で判断して購入する」（30.2%）を合わせた“国産であれば、愛知県産にはこだわらない”と答えた人の割合は60.6%となっている。

「産地にはこだわらず(愛知県産、国産、外国産など関係なく)、価格で判断して購入する」(11.5%)と「産地にはこだわらず(愛知県産、国産、外国産など関係なく)、味・鮮度で判断して購入する」(8.1%)を合わせた“産地にはこだわらない”と答えた人の割合は19.6%となっている。

## (6) 「いいともあいち運動」の認知度

### 「まったく知らない」が74.4%

「いいともあいち運動」の認知度について、「よく知っている」(2.1%)と「内容はよく知らないが、名前を聞いたことがある、またはマークを見たことがある」(22.1%)を合わせた“知っている”と答えた人の割合は24.2%となっている。

一方で、「まったく知らない」と答えた人の割合は74.4%となっている。

## 2 「SDGs (持続可能な開発目標)」について

### (1) 「SDGs」の認知度

#### “聞いたことがある”が71.1%

「SDGs」の認知度について、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」(10.0%)と「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」(32.2%)と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(28.9%)を合わせた“聞いたことがある”と答えた人の割合は71.1%となっている。

一方で、「聞いたことがない」と答えた人の割合は27.4%となっている。

### (2) 「SDGs」を知ったきっかけ

#### 「テレビや新聞などマスコミを通じて知った」が79.8%

「SDGs」を知ったきっかけについて、「テレビや新聞などマスコミを通じて知った」と答えた人の割合が79.8%と最も高く、続いて「職場や学校などで知った」(20.4%)、「SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン等のソーシャル・ネットワーキング・サービス)、Webページ(国や自治体のWebページを除く)等インターネットを通じて知った」(13.4%)の順となっている。

### (3) 関心のあるゴール(目標)

#### 目標3「すべての人に健康と福祉を」が31.3%

「SDGs」の関心のあるゴール(目標)について、目標3「すべての人に健康と福祉を」と答えた人の割合が31.3%と最も高く、続いて目標1「貧困をなくそう」(24.7%)、目標13「気候変動に具体的な対策を」(24.3%)の順となっている。

### (4) 「SDGs」の重要度

#### “重要だと思う”が76.3%

「SDGs」の重要度について、「重要だと思う」(55.1%)と「やや重要だと思う」(21.2%)を合わせた“重要だと思う”と答えた人の割合は76.3%となっている。

一方で、「あまり重要だと思わない」(1.8%)と「重要だと思わない」(0.9%)を合わせた“重要だと思わない”と答えた人の割合は2.6%となっている。

**(5) 「SDGs」の普及のために効果的だと思う愛知県が行う啓発  
「具体的な取組方法や取組事例の発信」が35.8%**

「SDGs」の普及のために効果的だと思う愛知県が行う啓発について、「具体的な取組方法や取組事例の発信」と答えた人の割合が35.8%と最も高く、続いて「『SDGs』の概要やその意義・理念などの情報の発信」(35.0%)、「学校教育」(34.1%)の順となっている。

**3 地球温暖化対策等について**

**(1) 「脱炭素社会」の認知度  
“知っていた”が78.9%**

「脱炭素社会」の認知度について、「知っていた」(43.4%)と「言葉だけは知っていた」(35.5%)を合わせた“知っていた”と答えた人の割合は78.9%となっている。  
一方で、「知らなかった」と答えた人の割合は19.5%となっている。

**(2) 「脱炭素社会」実現に向けた取組への意欲  
“取り組みたい”が89.9%**

「脱炭素社会」実現に向けた取組への意欲について、「積極的に取り組みたい」(20.7%)と「ある程度取り組みたい」(69.2%)を合わせた“取り組みたい”と答えた人の割合は89.9%となっている。  
一方で、「あまり取り組みたくない」(5.8%)と「まったく取り組みたくない」(1.9%)を合わせた“取り組みたくない”と答えた人の割合は7.7%となっている。

**(3) 「脱炭素社会」実現に向けて取り組んでいること  
「こまめな消灯、家電のコンセントを抜くなどによる電気消費量の削減」が56.0%**

「脱炭素社会」実現に向けて取り組んでいることについて、「こまめな消灯、家電のコンセントを抜くなどによる電気消費量の削減」と答えた人の割合が56.0%と最も高く、続いて「冷蔵庫、エアコン、照明器具などの家電製品を購入する際に、省エネルギー効果の高い製品を購入」(49.9%)、「軽装や重ね着などにより、冷暖房の設定温度を適切に管理」(47.5%)の順となっている。

**(4) 知っている「あいち COOL CHOICE」県民運動の取組  
「環境にやさしい自動車(電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド自動車(PHV)、  
燃料電池自動車(FCV))の自動車税の課税免除」が42.2%**

知っている「あいち COOL CHOICE」県民運動の取組について、「環境にやさしい自動車(電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド自動車(PHV)、燃料電池自動車(FCV))の自動車税の課税免除」と答えた人の割合が42.2%と最も高く、続いて「住宅用地球温暖化対策設備導入促進費に対する市町村補助制度への助成」(14.0%)、「『省エネ家電サポーター店』登録制度(家電製品の省エネルギー性能等の情報を来店者へ積極的にわかりやすく説明する店舗の登録)の実施」(4.7%)の順となっている。

一方で、「どれも知らない」と答えた人の割合は48.1%となっている。

## (5) 家庭でのエネルギー使用量等の把握状況

### “把握している”が55.0%

家庭でのエネルギー使用量等の把握状況について、「自宅に設置した<sup>ヘムス</sup> HEMS<sup>※</sup>を利用して把握している」(1.8%)と「電力会社やガス会社等が提供するインターネットサービスを利用して把握している」(6.3%)と「家庭での電気やガスなどの使用量を記録し、二酸化炭素排出量を計算することができる『環境家計簿』を利用して把握している」(1.3%)と「電気やガスの使用量明細書(検針票)等により、毎月のエネルギー使用量は把握している」(45.5%)を合わせた“把握している”と答えた人の割合は55.0%となっている。

一方で、「把握していない」と答えた人の割合は41.3%となっている。

<sup>ヘムス</sup>  
※HEMS：家庭用エネルギーマネジメントシステム。住宅内の家電製品等とネットワークで接続し、稼働状況などを監視、遠隔操作や自動制御することで、家庭におけるエネルギー管理(省エネ)を支援する。

## (6) 地球温暖化問題を解決するために愛知県が進めるべき取組

### 「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、再生可能エネルギー利用設備(太陽光発電設備や蓄電池等)などの購入に対する経済的支援」が47.4%

地球温暖化問題を解決するために愛知県が進めるべき取組について、「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、再生可能エネルギー利用設備(太陽光発電設備や蓄電池等)などの購入に対する経済的支援」と答えた人の割合が47.4%と最も高く、続いて「地球温暖化の状況や影響に関する情報提供や意識啓発」(40.7%)、「省エネの取組や再生可能エネルギーの導入などの具体的な対策に関する情報提供や技術的アドバイス」(38.1%)の順となっている。

## (7) 地球温暖化対策に必要な情報

### 「家庭や職場で実践することができる地球温暖化対策」が43.4%

地球温暖化対策に必要な情報について、「家庭や職場で実践することができる地球温暖化対策」と答えた人の割合が43.4%と最も高く、続いて「地球温暖化の原因や現状、日常生活に及ぼす影響」(41.5%)、「市民団体等が実施している地球温暖化対策」(4.2%)の順となっている。

## (8) 環境学習や環境保全活動への参加状況

### 「資源回収活動」が50.7%

環境学習や環境保全活動への参加状況について、「資源回収活動」と答えた人の割合が50.7%と最も高く、続いて「地域や河川・海岸等の清掃活動」(25.3%)、「ゴミ減量やエネルギー、自然など環境について学べる施設の見学」(13.0%)の順となっている。

一方で、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」と答えた人の割合は20.5%、「参加したことがないし、参加したいとも思わない」と答えた人の割合は10.7%となっている。

## 4 「生涯学習」に関する取組や考え方について

### (1) 1年間の「生涯学習」への取組状況

#### 「趣味・教養的なもの」が32.4%

この1年間の「生涯学習」への取組状況について、「趣味・教養的なもの」と答えた人の割合が32.4%と最も高く、続いて「健康に関することやスポーツ」(25.5%)、「職業上必要な知識・技能」(19.6%)の順となっている。

一方で、「(この1年)していない」と答えた人の割合は37.2%となっている。

### (2) 「生涯学習」を行う目的・必要性

#### 「教養を高めたり、趣味を広げ人生を豊かにするため」が40.7%

「生涯学習」を行う目的・必要性について、「教養を高めたり、趣味を広げ人生を豊かにするため」と答えた人の割合が40.7%と最も高く、続いて「健康・体力づくりのため」(32.0%)、「家庭・日常生活をよりよくするため」(30.6%)の順となっている。

### (3) 増えたらよいと思う「生涯学習」の機会

#### 「県や市町村などの自治体が公民館などで実施する講座や教室」が35.2%

増えたらよいと思う「生涯学習」の機会について、「県や市町村などの自治体が公民館などで実施する講座や教室」と答えた人の割合が35.2%と最も高く、続いて「パソコン、インターネットを利用した学習の機会」(25.6%)、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブなどの講座や教室」(19.6%)の順となっている。

### (4) 「生涯学習」を行おうとしたときの課題

#### 「仕事や家事が忙しくて時間がない」が41.5%

「生涯学習」を行おうとしたときの課題について、「仕事や家事が忙しくて時間がない」と答えた人の割合が41.5%と最も高く、続いて「費用がかかる」(35.5%)、「講座や教室などが、自分の希望や実施時期・時間に合わない」(24.3%)の順となっている。

### (5) 「生涯学習」で得た知識・体験の活用状況

#### 「仕事に関係のある学習に関する支援や指導」が12.0%

「生涯学習」で得た知識・体験の活用状況について、「仕事に関係のある学習に関する支援や指導」と答えた人の割合が12.0%と最も高く、続いて「地域でのボランティア活動や伝統行事、スポーツに関する支援や指導」(9.1%)、「趣味のための学習活動に関する指導、助言などの活動」(9.0%)の順となっている。

一方で、「生かしたいと思っているが、生かしていない」と答えた人の割合は27.6%、「そもそも生かそうと思っていない、又は生涯学習をしていない」と答えた人の割合は30.7%となっている。

## (6) 「生涯学習」の成果を生かせていない理由

### 「まだ活用できるレベルに達していない」が45.7%

「生涯学習」の成果を生かせていない理由について、「まだ活用できるレベルに達していない」と答えた人の割合が45.7%と最も高く、続いて「仕事や家事が忙しくて時間がない」(35.6%)、「生かした活動を行うための情報・きっかけがない」(26.6%)の順となっている。

## (7) 学んだ知識・体験を社会に生かす機会を増やすために必要なこと

### 「県や市町村による分かりやすい情報提供」が22.6%

学んだ知識・体験を社会に生かす機会を増やすために必要なことについて、「県や市町村による分かりやすい情報提供」と答えた人の割合が22.6%と最も高く、続いて「県や市町村などによる活動機会の提供」(10.4%)、「県や市町村、図書館や博物館、ボランティア団体、NPOなどとの連携による活動機会の提供」(6.5%)の順となっている。

一方で、「わからない」と答えた人の割合は27.8%となっている。

## 5 障害者差別解消について

### (1) 身近に障害のある人がいた経験の有無

#### 「自分自身や家族など身近な親族にいる・いた」が32.2%

身近に障害のある人がいた経験の有無について、「自分自身や家族など身近な親族にいる・いた」と答えた人の割合が32.2%と最も高く、続いて「自分の職場にいる・いた」(17.4%)、「学校にいる・いた」(16.8%)の順となっている。

一方で、「身近にいたことがない」と答えた人の割合は26.5%となっている。

### (2) 社会における障害のある人に対する差別や偏見の有無

#### “あると思う”が76.3%

社会における障害のある人に対する差別や偏見の有無について、「かなりあると思う」(24.8%)と「ある程度はあると思う」(51.5%)を合わせた“あると思う”と答えた人の割合は76.3%となっている。

一方で、「あまりないと思う」(5.0%)と「ほとんどないと思う」(2.9%)を合わせた“ないと思う”と答えた人の割合は7.9%となっている。

### (3) 障害のある人に対する差別や偏見の改善状況

#### “改善されている”が32.7%

障害のある人に対する差別や偏見の改善状況について、「かなり改善されている」(3.3%)と「ある程度は改善されている」(29.4%)を合わせた“改善されている”と答えた人の割合は32.7%となっている。

一方で、「あまり改善されてない」(11.7%)と「ほとんど改善されてない」(6.7%)を合わせた“改善されてない”と答えた人の割合は18.4%となっている。

**(4) 障害等への理解を深めるために効果的だと思う愛知県の取組**

**「障害及び障害のある人への理解に関する学校教育」が 61.3%**

障害等への理解を深めるために効果的だと思う愛知県の取組について、「障害及び障害のある人への理解に関する学校教育」と答えた人の割合が 61.3%と最も高く、続いて「テレビでの広報」(36.4%)、「SNS (ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン等のソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)、Web ページ等インターネットによる情報の発信」(29.8%) の順となっている。

**(5) 一定の配慮や工夫が行われない場合の「障害を理由とする差別」の有無**

**“差別が生じていると思う”が 54.9%**

一定の配慮や工夫が行われない場合の「障害を理由とする差別」の有無について、「差別が生じていると思う」(22.6%)と「どちらかと言えば差別が生じていると思う」(32.2%)を合わせた“差別が生じていると思う”と答えた人の割合は 54.9%となっている。

一方で、「どちらかと言えば差別が生じているとは思わない」(6.2%)と「差別が生じているとは思わない」(6.3%)を合わせた“差別が生じているとは思わない”と答えた人の割合は 12.4%となっている。

**(6) 事業者による障害のある人への配慮や工夫の実施**

**“望ましいと思う”が 83.7%**

事業者による障害のある人への配慮や工夫の実施について、「望ましいと思う」(60.0%)と「どちらかと言えば望ましいと思う」(23.7%)を合わせた“望ましいと思う”と答えた人の割合は 83.7%となっている。

一方で、「どちらかと言えば望ましくないと思う」(0.6%)と「望ましくないと思う」(0.7%)を合わせた“望ましくないと思う”と答えた人の割合は 1.3%となっている。

**6 ギャンブル等依存症について**

**(1) これまでのギャンブル等への参加状況**

**「宝くじ (ロト・ナンバーズ等)」が 57.6%**

これまでのギャンブル等への参加状況について、「宝くじ (ロト・ナンバーズ等)」と答えた人の割合が 57.6%と最も高く、続いて「ぱちんこ・パチスロ」(46.9%)、「競馬」(26.4%) の順となっている。

**(2) 1年間のギャンブル等への参加状況**

**「宝くじ (ロト・ナンバーズ等)」が 32.2%**

この1年間のギャンブル等への参加状況について、「宝くじ (ロト・ナンバーズ等)」と答えた人の割合が 32.2%と最も高く、続いて「ぱちんこ・パチスロ」(14.2%)、「競馬」(8.8%) の順となっている。

一方で、「この1年ギャンブル等をしていない」と答えた人の割合は 51.8%となっている。

### (3) 「ギャンブル等依存症」の認知度

#### 「聞いたことがある」が95.6%

「ギャンブル等依存症」の認知度について、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」(40.6%)と「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」(43.5%)と「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(11.5%)を合わせた“聞いたことがある”と答えた人の割合は95.6%となっている。

一方で、「知らない」と答えた人の割合は2.8%となっている。

### (4) 「ギャンブル等依存症」を知ったきっかけ

#### 「テレビ・ラジオを通じて知った」が75.3%

「ギャンブル等依存症」を知ったきっかけについて、「テレビ・ラジオを通じて知った」と答えた人の割合が75.3%と最も高く、続いて「新聞・雑誌を通じて知った」(37.6%)、「家族・友人・知人を通じて知った」(12.8%)の順となっている。

### (5) 「ギャンブル等依存症問題啓発週間」の認知度

#### 「知らない」が90.7%

「ギャンブル等依存症問題啓発週間」の認知度について、「知っている」と答えた人の割合が4.0%となっている。

一方で、「知らない」と答えた人の割合は90.7%となっている。

### (6) ギャンブル等による困りごとの有無

#### 「なかった」が72.4%

ギャンブル等による困りごとの有無について、「なかった」と答えた人の割合が72.4%となっている。

一方で、「あった」と答えた人の割合は19.7%となっている。

### (7) ギャンブル等による困りごとがあったときの相談相手

#### 「家族・友人・知人」が52.5%

ギャンブル等による困りごとがあったときの相談相手について、「家族・友人・知人」と答えた人の割合が52.5%と最も高く、続いて「専門の相談機関(医療機関・行政の窓口等)」(35.3%)、「職場の上司や同僚」(3.7%)の順となっている。